

エイズ先端医療研究部（エイズ先端医療開発室）

エイズ先端医療研究部長 白阪琢磨

エイズ先端医療研究部はエイズ先端医療開発室と HIV 感染制御室から構成されている。

海外同様、わが国、特に大阪で HIV 感染症患者の報告数は増加の一途である。HIV 感染症に対する抗 HIV 療法の進歩によって HIV 感染症の予後は大きく改善し、HIV 感染症は医学的管理のできる慢性疾患と捉えられるまでになったが、治癒は未だにない。さて、当院は薬害 HIV 裁判の和解に基づく恒久対策の一環として、平成 9 年にエイズ診療における近畿ブロックのブロック拠点病院に選定された。当院には診療（全科体制）、臨床研究、教育・研修、情報発信の 4 つの機能が期待されている。当院の HIV/AIDS 先端医療開発センターが中心となって関連部署と緊密な連携を取りながら任務を遂行しているが、診療は感染症内科が担い、その他は当エイズ先端医療研究部が担っている。臨床研究では後述のように厚生労働科学研究費補助金による研究（平成 22 年度は白阪が「HIV 感染症および合併症の課題を克服する研究」の研究代表者、上平が「HIV 感染症の医療体制に関する研究」の研究分担者、渡邊が「標準的治療法の確立を目指した急性 HIV 感染症の病態解析」の研究代表者）などを実施し、多くの成果を上げ、その研究成果の一部は学会あるいは論文としても発表した。臨床研究の主なテーマはベッドサイドからの病態解析や治療に関する研究と患者中心の医療の提供に関する研究である。前者は渡邊大が HIV 感染制御室で実施し、後者をエイズ先端医療開発室で実施している。HIV 感染症の治療の中心である抗 HIV 療法は服薬が基本である。免疫能を回復させ、健康を維持し続けるためには、その服薬率（服薬アドヒアランス）は 95%以上である事が求められる。感染者の多くは若者であるが、社会経済的、心理学的、精神的な困難を有する例も多く、医師、看護師のみならず、薬剤師、臨床心理士、ソーシャル・ワーカーなどから成るチームでの医療の提供が必要であり、研究を進めている。また、HIV 感染症患者の様々な病態に対応するには医療施設間での診療連携や福祉施設との相互の連携も必要であり長期療養についても研究を継続している。血液製剤による感染者の多くは C 型肝炎にも重複感染している。HIV 感染症での死亡例が減少した一方で、細菌では C 型肝炎での死亡例が増えており、その対策が急がれる。当エイズ先端医療研究部も研究分担（兼松班、山下班）として対策に取り組んでいる。教育・研修では院内向け院外向け共に院内での研修については、看護部、医療相談室、臨床心理室等と共に職員研究部と協働で実施し、多くの参加者を得ている。厚生労働科研補助金エイズ対策研究事業の研究では訪問看護研修などを全国で実施している。情報発信については当院のホームページ内に HIV/AIDS 先端医療開発センターの頁を (<http://www.onh.go.jp/khac/>) 設け、厚労科研の成果の一部や HIV 感染症/AIDS に関する情報を発信しており、アクセス数は 1999 年以来 40 万件を超え、多くの利用を得ている。

当部は今後も HIV/AIDS 先端医療開発センターの研究部門として HIV 感染症/AIDS に関する臨床研究、教育・研修、情報発信を進めて行きたい。

【2010 年度研究発表業績】

A-0

Shirasaka T, Tadokoro T, Yamamoto Y, Fukutake K, Kato Y, Odawara T, Nakamura T, Ajisawa A, Negishi M.

Investigation of emtricitabine-associated skin pigmentation and safety in HIV-1- infected Japanese patients. Mar3,2011(online), J. Infection and Chemotherapy

Hirokazu Nagai, Takashi Odawara, Atsushi Ajisawa, Shotaro Hagiwara, Tomoyuki Watanabe, Tomoko Uehira, Hideki Uchiumi, Mihoko Yotsumoto, Toshikazu Miyakawa, Akira Watanabe, Toshiyuki Kambe, Mitsuru Konishi, Seiji Saito, Soichiro Takahama, Masao Tateyama, Seiji Okada. Whole brain radiation alone produces favourable outcomes for AIDS-related primary central nervous systems lymphoma in the HAART era. European Journal of Haematology 2010;84:499-505

Taniguchi T, Ogawa Y, Kasai D, Watanabe D, Yoshikawa K, Bando H, Yajima K, Tominari S, Shiiki S, Nishida Y, Uehira T and Shirasaka T. Three cases of fungemia in HIV-infected patients diagnosed through the use of mycobacterial blood culture bottles. Intern Med 2010;49(19):2179-2183

Watanabe D, Uehira T, Yonemoto H, Bando H, Ogawa Y, Yajima K, Taniguchi T, Kasai D, Nishida Y and Shirasaka T. Sustained High Levels of Serum Interferon-g During HIV-1 Infection: A Specific Trend Different from Other Cytokines. Viral immunology 2010;23(6):619-625

Watanabe D, Taniguchi T, Otani N, Tominari S, Nishida Y, Uehira T, Shirasaka T. Immune reconstitution to parvovirus B19 and resolution of anemia in a patient treated with highly active antiretroviral therapy: A case report. J Infect Chemother. in press.

Hattori J, Shiino T, Gatanaga H, Yoshida S, Watanabe D, Minami R, Sadamasu K, Kondo M, Mori H, Ueda M, Tateyama M, Ueda A, Kato S, Ito T, Oie M, Takata N, Hayashida T, Nagashima M, Matsuda M, Ibe S, Ota Y, Sasaki S, Ishigatsubo Y, Tanabe Y, Koga I, Kojima Y, Yamamoto M, Fujita J, Yokomaku Y, Koike T, Shirasaka T, Oka S, Sugiura W. Trends in transmitted drug-resistant HIV-1 and demographic characteristics of newly diagnosed patients: Nationwide surveillance from 2003 to 2008 in Japan. Antiviral Res 2010;88(1):72-9

A-1

谷口智宏：「感染症ケースファイル ここまで活かせる グラム染色・血液培養」喜舎場朝和・遠藤和郎、1-259、医学書院、東京、2011年3月

A-2

仲倉高広、宮本哲雄：HIV 看護とカウンセリング 『心理臨床的支援の方法』—カウンセリングのすすめ』菅佐和子、99-110、新曜社、東京、2010年4月

下司有加：HIV 感染者・AIDS 患者の看護（告知・初診時）「成人看護学慢性期看護論」鈴木志津枝・藤田佐和、323、ヌーヴェルヒロカワ、東京、2011年1月

A-3

富成伸次郎、葛下典由、坂東裕基、外山隆、上平朝子、三田英治：肺炎球菌による脾摘後重症感染症（OPSI）の1例「臨床消化器内科」25(5):P.617-622、2010年5月

由雄敏之、葛下典由、小川吉彦、笠井大介、上平朝子、三田英治：後天性免疫不全症候群に関連した特発性食道潰瘍の2例「臨床消化器内科」25(10):P.1409-1414、2010年9月

小川吉彦、渡邊大、佐子肇、坂東裕基、矢嶋敬史郎、谷口智宏、富成伸次郎、笠井大介、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：旅行者感染症として播種性ペニシリウム症を発症し治療が奏効した邦人 HIV 感染者の1症例「感染症学雑誌」84(6):P.740-743、2010年11月

白阪琢磨：IAS-USA ガイドライン Up-Date「HIV 感染症と AIDS の診療」1(2):P.20-24、2010年11月

上平朝子：HIV 感染症患者の肝機能障害「HIV 感染症と AIDS の診療」1(2):P.36-44、2010年11月

吉野宗宏：後天性免疫不全症候群「薬局」61(4):P.824-830、2010年3月

吉野宗宏：HIV 感染症患者に対する薬剤師外来の取り組み「薬事」52(14):P.53-57、2010年12月

吉野宗宏：HIV 感染症治療と薬剤師の関わり「医薬の門」49(6):P.50-52、2010年

葛下典由、上平朝子、中水流正一、外山隆、由雄敏之、三田英治：HIV 感染経路観察中、B 型急性肝炎を起こし慢性化した1例「臨床消化器内科」26(1):P.117-120、2011年1月

笠井大介、小谷義一、奥野恵子、小林和幸、船田泰弘、西村善博、大林千穂:G-CFS 産生腫瘍と考えられた肺肉腫様癌3例の検討「肺癌」50(7):P.894-900、2010年

A-4

白阪琢磨：HIV 感染者/AIDS 患者に対する医療システムの現状と今後の課題「公衆衛生」74(11):P.918-922、2010年11月

A-6

岡本学、白阪琢磨: HIV 感染症治療と MSW「病院」70(2):P.137-140、2010年2月

B-2

DAISUKE KASAI, TAKUMA SHIRASAKA, YOSHIHIKO OGAWA, HIROKI BANDO, KEISHIRO YAJIMA, TOMOHIRO TANIGUCHI, DAI WATANABE, YASUHARU NISHIDA, TOMOKO UEHIRA. ANALYSIS OF THE FATAL CASES DUE TO PNEUMOCYSTIS PNEUMONIA IN HIV-INFECTED PATIENTS. 15th Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology, Philippines, 2010年11月

B-3

白阪琢磨：医療体制、長期療養問題などについて。第 84 回日本感染症学会総会、京都、2010 年 4 月

仲倉高広：身体疾患と心理療法的関係の維持—「サイコセラピストの行動化」への誘惑と、その保持によって—クライアントや医療者への「支援」に活かすことについて—。日本心理臨床学会第 29 回春季大会ワークショップ、東京、2010 年 5 月

笠井大介、小川吉彦、坂東裕基、矢嶋敬史郎、谷口智宏、富成伸次郎、渡邊大、西田恭治、上平朝子、矢倉裕輝、吉野宗宏、白阪琢磨：HIV 治療薬と抗てんかん薬の相互作用に関する検討。第 58 回日本化学療法学会総会、長崎、2010 年 6 月

渡邊大、米本仁史、坂東裕基、小川吉彦、矢嶋敬史郎、谷口智宏、笠井大介、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：血漿 HIV-RNA 量が測定感度未満に到達するまで長期の日数を必要とした初回抗 HIV 療法導入例の解析。第 24 回近畿エイズ研究会学術集会、大阪、2010 年 6 月

仲倉高広：医療におけるカウンセリング体制とは？—導入から定着までの課題と展望—。日本応用心理学会第 77 回大会シンポジウム、京都、2010 年 9 月

白阪琢磨、瀧永博之、横幕能行：HIV 感染症・AIDS の初回治療：何を選択するか？。第 24 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010 年 11 月

服部純子、椎野禎一郎、瀧永博之、林田庸総、吉田繁、千葉仁志、小池隆夫、佐々木悟、伊藤俊広、内田和江、原孝、佐藤武幸、上田敦久、石ヶ坪良明、近藤真規子、今井光信、長島真美、貞升健志、古賀一郎、太田康男、山元泰之、福武勝幸、加藤真吾、藤井毅、岩本愛吉、西澤雅子、仲宗根正、岡慎一、伊部史朗、横幕能行、上田幹夫、大家正義、田邊嘉也、渡辺香奈子、渡邊大、白阪琢磨、小島洋子、森治代、中桐逸博、高田昇、木村昭郎、南留美、山本政弘、松下修三、藤田次郎、健山正男、杉浦互：2003～2009 年の新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性頻度の動向。第 24 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010 年 11 月

上平朝子：HIV の周辺領域の医療課題～医療現場からの報告。第 24 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010 年 11 月

山元泰之、青木眞、Ann Khalsa、西田恭治、村松崇、山中晃、横幕能行：症例から学ぶ HIV 感染症診療のコツ。第 24 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010 年 11 月

矢嶋敬史郎：われわれはどのような専修医を育成すべきか～専修医修了者の立場から～。第 64 回国立病院総合医学会、福岡、2010 年 11 月

矢嶋敬史郎：HIV/AIDS と長期療養～臨床医の立場から～。第 24 回日本エイズ学会学術集会・総会、

東京、2010年11月

今村顕史、大野稔子、下司有加、井門敬子、高久陽介：時代が求めるセルフケア再考。第24回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010年11月

吉野宗宏：知ると知らぬで大違い！長期内服で押さえておきたいポイント。第24回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010年11月

B-4

下司有加、垣端美帆、上平朝子、富成伸次郎、岡本学、安尾利彦、白阪琢磨：訪問看護ステーションにおける HIV 陽性者の受け入れに関する研究。第24回近畿エイズ研究学会、大阪、2010年6月

下司有加：自立困難な HIV 陽性者の家族の支援ニーズに関する研究。第4回慢性看護学会、北海道、2010年6月

治川知子：受診中断に至る HIV 陽性者の背景から見るサポート形成支援について。第4回慢性看護学会、北海道、2010年6月

東政美：受診中断している HIV 陽性患者の保健行動の現状。第4回慢性看護学会、北海道、2010年6月

仲倉高広：故意に自らの健康を害する依存症的な性行動が繰り返された男性と性行為を行う男性（MSM）の心理療法について～風景構成法を用いた一事例を通して～。日本ヒューマン・ケア心理学会第12回大会、東京、2010年7月

宮本哲雄：HIV/AIDS 医療における大阪医療センターでのカウンセリング状況について。日本ヒューマン・ケア心理学会第12回大会、東京、2010年7月

仲倉高広：故意に自らの健康を害する依存症的な性行動が繰り返された HIV 陽性者の心理療法について～永遠の少年の元型的イメージとイニシエーションの視点からの考察～。日本心理臨床学会第29回秋季大会、宮城、2010年7月

泉抽岐、井端美奈子、白阪琢磨、古山美穂：高校生対象の DVD 教材「本気で CONDOMING～HIV/エイズの予防と最新治療～」の開発。第24回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010年11月

日笠聡、栞原健、小島賢一、白阪琢磨：抗 HIV 療法と服薬援助のための基礎的調査—治療開始時の抗 HIV 薬処方動向調査(2010年)—。第24回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010年11月

小島賢一、栞原健、日笠聡、白阪琢磨：抗 HIV 療法と服薬援助のための基礎的調査—抗 HIV 薬の

薬剤変更状況調査(2010年)―。第24回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010年11月

栗原健、畝井浩子、佐藤真希、高橋昌明、吉野宗宏、白阪琢磨：抗HIV薬の服薬に関するアンケート調査結果。第24回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010年11月

大北全俊、渡邊大、白阪琢磨：急性感染者の早期発見の促進に関する倫理的な課題について。第24回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010年11月

大谷ありさ、仲倉高広、藤本恵里、森田眞子、安尾利彦、倉谷昂志、宮本哲雄、垣端美帆、下司有加、治川知子、東政美、白阪琢磨、廣常秀人：初診時から1年後のHIV感染症患者のメンタルヘルス。第24回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010年11月

安尾利彦、仲倉高広、倉谷昂志、大谷ありさ、森田眞子、藤本恵里、宮本哲雄、吉田哲彦、疇地道代、廣常秀人、白阪琢磨：全国の精神科診療施設におけるHIV感染症患者の診療状況に関する研究58。第24回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010年11月

平島園子、白阪琢磨、小西加保留、岡本学：訪問看護導入時における制度利用について。第24回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010年11月

栗原健、日笠聡、小島賢一、白阪琢磨：拠点病院における抗HIV療法と薬剤関連アンケート調査結果(第7報)。第24回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010年11月

渡邊大、上平朝子、白阪琢磨、横幕能行、濱口元洋、南留美：急性HIV感染症の入院37症例の検討。第24回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010年11月

倉谷昂志、上平朝子：ある心理面接過程から捉えたHIV感染症患者が感じる孤立感について。第24回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010年11月

藤本恵里、大谷ありさ、仲倉高広、森田眞子、安尾利彦、倉谷昂志、宮本哲雄、垣端美帆、下司有加、治川知子、東政美、白阪琢磨、廣常秀人：HIV感染症患者における初診時から1年後の心理状態と生活に関する研究。第24回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010年11月

宮本哲雄、仲倉高広、安尾利彦、森田眞子、大谷ありさ、藤本恵里、倉谷昂志、白阪琢磨：HIV脳症の認知/運動機能障害の査定に関する研究。第24回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010年11月

藤原良次、橋本謙、早坂典生、荒木順子、坂本裕敬、山懸真矢、間島孝子、白阪琢磨：ケースマネージメントスキルを使った行動変容支援サービスに関する研究。第24回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010年11月

白阪琢磨、日笠聡、岡慎一、川戸美由紀、橋本修二、吉崎和幸、福武勝幸：血液製剤による HIV 感染者の調査成績 第 1 報 CD4 値、HIV-RNA 量と治療の現状と推移。第 24 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010 年 11 月

川戸美由紀、橋本修二、岡慎一、吉崎和幸、福武勝幸、日笠聡、白阪琢磨：血液製剤による HIV 感染者の成績調査 第 2 報 抗 HIV 薬の組み合わせの変更と CD4 値、HIV-RNA 量の関連性。第 24 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010 年 11 月

B-4

下司有加、治川知子、垣端美帆、東政美、上平朝子、古西満、高折晃史、日笠聡、白阪琢磨：外来診療における HIV 専従看護師の必要性。第 24 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010 年 11 月

坂東裕基、笠井大介、米本仁史、小川吉彦、矢嶋敬史郎、谷口智宏、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨、児玉良典、眞能正幸：脳生検で診断されたトキソプラズマ症の一例。第 24 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010 年 11 月

矢倉裕輝、榎田宏幸、吉野宗宏、米本仁史、小川吉彦、坂東裕基、矢嶋敬史郎、笠井大介、谷口智宏、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨、栗原健：Darunavir の 1 日 1 回投与法におけるトラフ濃度と副作用に関する検討。第 24 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010 年 11 月

渡邊大、伊部史朗、近藤恭子、上平朝子、南留美、笹川淳、矢嶋敬史郎、米本仁史、坂東裕基、小川吉彦、谷口智宏、笠井大介、西田恭治、山本政弘、金田次弘、白阪琢磨：残存プロウィルス量測定の臨床的意義について。第 24 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010 年 11 月

吉野宗宏、矢倉裕輝、榎田宏幸、米本仁史、小川吉彦、坂東裕基、矢嶋敬史郎、笠井大介、谷口智宏、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：当院におけるラルテグラビルの使用成績。第 24 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010 年 11 月

上平朝子、下司有加、矢嶋敬史郎、笠井大介、井内亜紀子、谷口智宏、小川吉彦、坂東裕基、米本仁史、渡邊大、西田恭治、白阪琢磨：HIV 感染者の一般医療に関する診療体制の構築。第 24 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010 年 11 月

白阪琢磨、富成伸次郎、小川吉彦、渡邊大、矢嶋敬史郎、米本仁史、坂東裕基、谷口智宏、笠井大介、西田恭治、上平朝子：Integrase 領域の変異の出現を認めた Raltegravir による治療失敗の 2 例。第 24 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010 年 11 月

矢嶋敬史郎、米本仁史、小川吉彦、坂東裕基、谷口智宏、笠井大介、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：HIV 感染症に合併した中枢神経 CMV 感染症の 3 例。第 24 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010 年 11 月

吉野宗宏、矢倉裕輝、櫛田宏幸、栗原健、米本仁史、小川吉彦、坂東裕基、矢嶋敬史郎、笠井大介、谷口智宏、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：Tenofovir 中止後の腎機能の回復に関する検討。第 24 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010 年 11 月

谷口智宏、米本仁史、小川吉彦、坂東裕基、矢嶋敬史郎、笠井大介、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：HIV 診療におけるグラム染色の有用性の検討。第 24 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010 年 11 月

小川吉彦、米本仁史、坂東裕基、矢嶋敬史郎、谷口智宏、笠井大介、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：当院における脳原発悪性リンパ腫の検討。第 24 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010 年 11 月

上平朝子、矢嶋敬史郎、小川吉彦、谷口智宏、笠井大介、坂東裕基、米本仁史、渡邊大、西田恭治、児玉良典、眞能正幸、白阪琢磨：当院における HIV 関連リンパ腫についての検討。第 24 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010 年 11 月

矢倉裕輝、櫛田宏幸、吉野宗宏、栗原健、米本仁史、小川吉彦、坂東裕基、矢嶋敬史郎、笠井大介、谷口智宏、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：ST 合剤の先発、後発医薬品の品質評価および過敏症の発現頻度に関する比較検討。第 24 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010 年 11 月

菊池嘉、遠藤知之、南留美、伊藤俊広、田邊嘉也、上田幹夫、横幕能行、渡邊大、藤井輝久、宮城島拓人、建山正男、中村仁美：多施設共同疫学調査における HAART の有効率 2009。第 24 回日本エイズ学会学術集会・総会、東京、2010 年 11 月

吉野宗宏、矢倉裕輝、櫛田宏幸、河合実、早川直樹、上野裕之、坂本泰一、齊藤誠、関本裕美、山内一恭、本田芳久、小林勝也、白阪琢磨：HIV 感染症患者に対する薬剤師外来の取り組み。第 20 回日本医療薬学会年会、千葉、2010 年 11 月

治川知子、今井敏幸、東政美、下司有加、立花泉：当院における HIV 陽性者の配偶者支援の必要性について。第 16 回日本 HIV/AIDS 看護学会、大阪、2011 年 2 月

東政美、今井敏幸、治川知子、下司有加、立花泉：受診中断患者と受診継続患者の保健行動の現状。第 16 回日本 HIV/AIDS 看護学会、大阪、2011 年 2 月

B-5

谷口智宏、小川吉彦、米本仁史、坂東裕基、矢嶋敬史郎、笠井大介、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：薬物中毒者における市中感染型 MRSA による三尖弁、僧帽弁への感染性心内膜炎の 1 例。第 192 回日本内科学会近畿地方会、大阪、2010 年 9 月

坂東裕基、渡邊大、上平朝子、白阪琢磨、吉岡千晶、葛下典由、中野知沙子、和田晃、児玉良典、眞能正幸：基礎疾患に肝硬変を有する重症新型インフルエンザ(H1N1)の1例。第192回日本内科学会近畿地方会、大阪、2010年9月

谷口智宏、坂東裕基、小川吉彦、矢嶋敬史郎、渡邊大、上平朝子、白阪琢磨：悪寒戦慄から血液培養採取までの時間は培養陽性割合に関連する。第53回日本感染症学会中日本地方会学術集会、京都、2010年11月

高島聡士、酒井佳奈紀、高松彩子、中野知沙子、倭成史、伊藤孝仁、若井聡智、渡邊大、多賀谷昌史、和田晃：集中的治療にても救命し得なかった劇症型抗リン脂質抗体症候群の1例。第193回日本内科学会近畿地方会、2010年12月、神戸

B-8

白阪琢磨：大阪における HIV/エイズの現状について。平成22年度エイズ予防週間講演会、大阪、2010年11月

B-9

今村顕史、下司有加、生島嗣、高久陽介：ハートをつなごう HIV について知っていること知らないこと・・・改めてみんなで語り合う。NHK、東京、2010年5月31日

今村顕史、下司有加、生島嗣、高久陽介：ハートをつなごう HIV 陽性者の暮らし・悩みについてさらに深く語ります！。NHK、東京、2010年6月1日

今村顕史、下司有加、生島嗣、高久陽介：ハートをつなごう HIV 陽性者の声にじっくり耳を傾ける。NHK、東京、2010年6月2日

今村顕史、下司有加、岡本学、高久陽介：ハートをつなごう HIV 第2弾就労編。NHK、東京、2010年12月20日

今村顕史、下司有加、岡本学、高久陽介：ハートをつなごう HIV 第2弾パートナーシップ編。NHK、東京、2010年12月21日

仲倉高広：臨床心理面接とクライアント論（第25回）HIV における心理療法。放送大学授業番組、千葉、2011年4月～2年間